

政策を支える



W3-012



国立障害者リハビリテーションセンター研究所

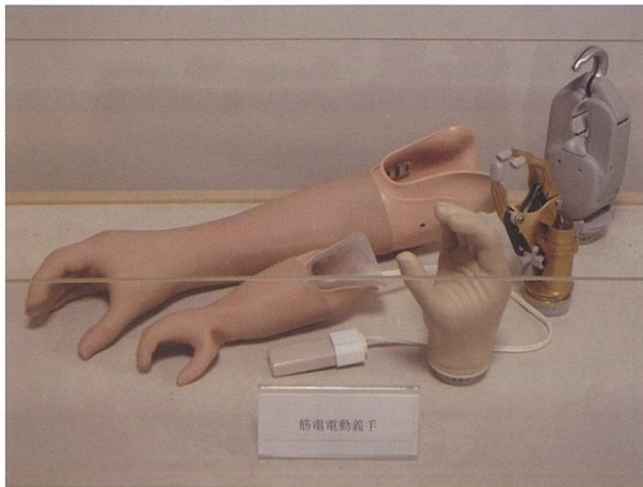
NATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIES

脊髄損傷者用 カーボン長下肢装具の開発

下肢に完全麻痺をもつ脊髄損傷者が装着し、闊歩可能な装具を開発しています。モータや電源の搭載なしに歩行中の膝関節動作を実現し、カーボン素材の活用によって軽量で操作性の良い装具を提供することを目指しています。

【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
運動機能系障害研究部 河島 則天 nori@rehab.go.jp

C-FREX
Carbon-Fiber Reinforced Exoskeleton



小児筋電義手研修会 パンフレットの配布

当センターでは、小児筋電義手の普及のために活躍する人材の育成を目的とした研修会を開いています。実際の訓練の進め方や児に対するサポート、義手のメンテナンス、国内外の筋電義手の現状や支給制度等について学ぶプログラムです。そのご案内としてパンフレットを配布しています。

【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター
支援機器イノベーション情報・支援室
<http://www.rehab.go.jp/innovation/events/>

下肢装具の試験評価

下肢装具の強度や耐久性は、大きな力を負荷したり、繰り返し動かすことで確かめられています。現状、試験方法の規格が定められているのは、金属製のみであり、試験方法の整備が求められています。今回の展示では、装具の種類ごとの破損事例と試験の課題を紹介します。

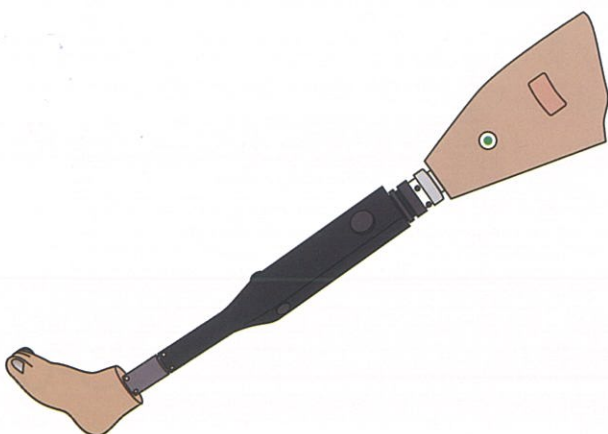
【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部 石渡 利奈 ishiwata-rina@rehab.go.jp



補装具の価格設定 および種目構造

補装具費支給制度では、種目毎の内容や価格の基準が定められており、概ね3年毎に改正が検討されます。この研究では、基準の見直しに有用な基礎データの調査等を行っています。（※本研究は平成27~29年度厚生労働科学研究費補助金「補装具費支給制度における種目の構造と基準額設定のあり方に関する調査研究」等によります）

【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
障害福祉研究部 我澤 賢之 gasawa-kenji@rehab.go.jp

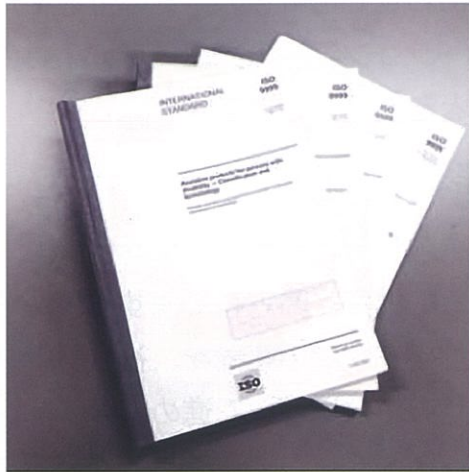
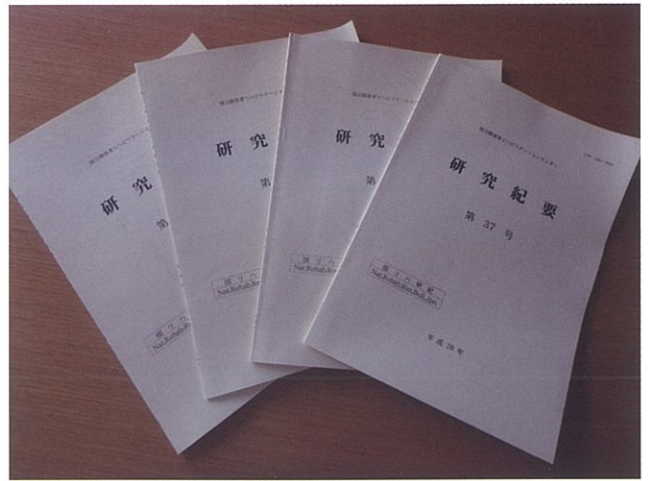


義肢・装具

センター研究紀要のご紹介

当センター職員の研究論文等をホームページに掲載しています。今回紹介している展示品以外にも、我々の活動について知っていただくと幸いです。(平成28年度以降はホームページでの公開のみとなっています。)

【URL】 <http://www.rehab.go.jp/kiyou/japanese/index.html>



支援機器関連の国際標準化

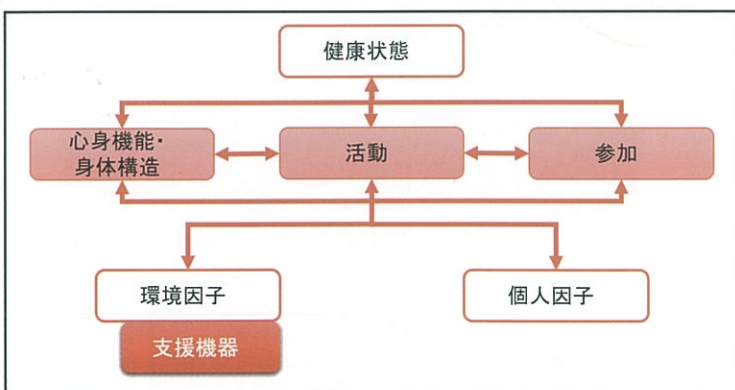
支援機器の開発や利活用の促進に向けて、用語の定義や安全基準、設計指針等を規定する国際標準は重要なキーワードとなります。当センターでは国際標準化機構 (ISO) や世界保健機関 (WHO) における支援機器関連の国際標準化に貢献するとともに、それに関する研究を実施しています。今回の展示では、これらの活動について紹介します。

【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 井上 剛伸 inoue-takenobu@rehab.go.jp

政策を支える

当研究所は、日本におけるリハビリテーション技術の研究開発の中核機関として設立されました。障害者の多様な要求に応えるために、障害特性の評価方法、支援技術や福祉機器に関する研究を行っているほか、政策に関する研究も行っています。今年は「政策を支える」をテーマとして、研究成果の展示や業務内容の紹介をします。

【URL】 <http://www.rehab.go.jp/ri/>



本研究は【厚生労働行政推進調査事業費補助金(障害者政策総合研究事業)「支援機器の適切な選定及び導入運用に向けたガイドライン作成のための研究」】により行なわれています。

ICF に基づく 支援機器の包括的理解

国際生活機能分類 (ICF) では、支援機器は環境因子に含まれる項目となっています。本研究では、各種支援機器と、生活機能の構成要素である心身機能・身体構造、活動・参加の関係を対応付けることで、支援機器の役割を整理し、適切な選定・導入運用を促すことを目指しています。具体的には、ICF と支援機器の対応表を作成し、支援機器の包括的理解を促進するツールの構築を行っています。

【問い合わせ先】 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 井上 剛伸 inoue-takenobu@rehab.go.jp

各研究部の紹介

当研究所は7つの部が連携して、みなさまからの多様なニーズに御応えできるよう務めています。

脳機能系障害研究部

脳機能障害を原因として家庭や社会での日常生活に困難を有する方を対象として、先端の脳神経科学に基づき、BMIの研究や、高次脳機能障害がある方への支援技術の研究開発、発達障害がある方への支援技術の研究開発などを行っています。

運動機能系障害研究部

ヒトの身体機能に関する分子レベルから行動に至るまでの幅広い基礎研究を通して、運動障害の特性や制御メカニズムを解明することを目指しています。基礎研究に基いて、障害者の運動機能障害のリハビリテーション、二次障害の予防、支援機器や方法論の開発につなげられるよう、研究を展開しています。

感覚機能系障害研究部

感覚器障害、感覚認知障害や音声言語とコミュニケーションの障害について研究し、それらの早期発見・評価・治療方法や、これらの障害があるときにコミュニケーションや社会参加を可能とするような方法を探索しています。

福祉機器開発部

福祉機器開発部は、「ひと・生活・もの」をキーワードに、ユーザーの思いを支える福祉機器の開発と評価に関する研究を行っています。研究テーマは、先端福祉機器開発、試験評価・規格、臨床評価・適合、精神・認知機能支援機器を柱として、フィールド・ベースド・イノベーションの考えを重視し、現場密着で研究活動を実施しています。補装具支給制度や国際規格、臨床評価に関連する研究も行っています。

障害工学研究部

障害機能の生体工学的な計測・評価技術、低下した機能の代替・補償・回復を行うための技術の研究・開発、並びにロボット技術を活用した研究・開発により、障害のある人のQOL向上、社会参加支援に寄与し、あわせてこれらの研究の推進を通じて、リハビリテーション工学の発展並びに人材の養成に貢献することを使命とします。

障害福祉研究部

障害者の自立・社会参加の促進に向けて、そのためのしくみの構築、障害者に関する課題検討の基礎となる統計データ等の整備を、社会科学・行動科学・情報科学等の手法を用いて進めています。主な研究テーマは、障害統計、障害認定、地域包括ケアシステム、防災、補装具費支給制度等です。

義肢装具技術研究部

臨床サービス、研究開発、社会貢献の3つを柱とし、より良い義肢装具の普及を目指しています。

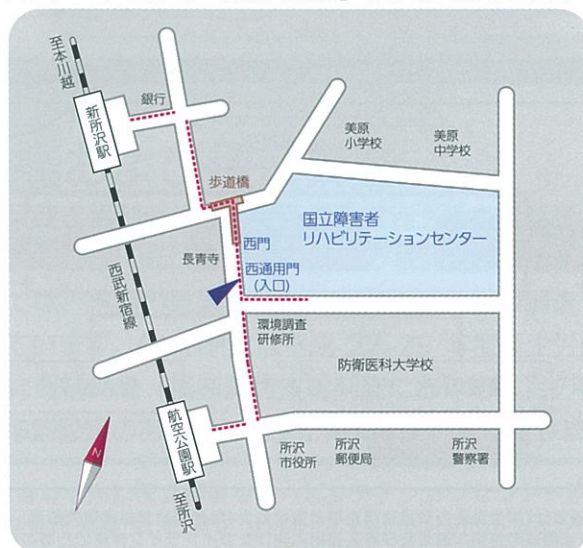
アクセス

公共交通機関をご利用の方

西武新宿線「航空公園」又は「新所沢」駅から徒歩約15分

乗用車をご利用の方

所沢インターチェンジ「所沢方面」出口から約30分



国立障害者リハビリテーションセンター研究所

〒359-8555 埼玉県 所沢市 並木 4-1

電話：04-2995-3100(代表) FAX: 04-2995-3132

URL: <http://www.rehab.go.jp/ri/>

